

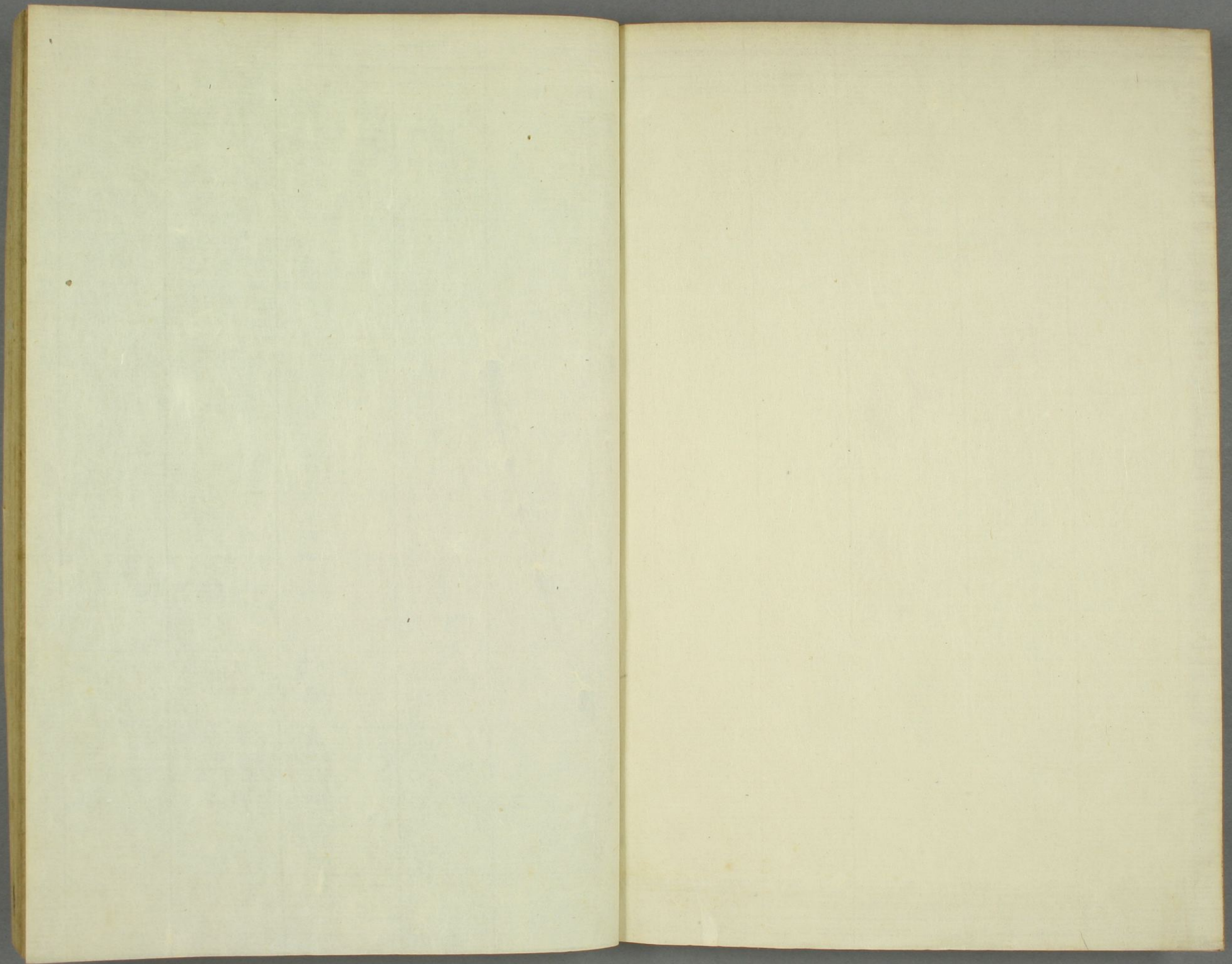


徳川實記抄録

五

特別
25
2142
5





雜事

有德院殿所實記附錄
拾七卷

門 伊 5
番 2242
巻 5

僧心越



音楽も久矣絶出法会杯もなすては終人奏
示所事もなすりし元文三年九月廿
本城少く音楽山寛河里て群臣事
とゆきし様し古ぬわの樂成めは
心不見破し心河多との無大威を
るる琴今も今世も彈正治も絶く
るるしに寛文の漢明の僧心越も言
世國も投化せし時傳へ来りて成勅定事

明治 39 年 5 月 21 日
林健三助氏寄贈

秋浦内藏元正昭の家人小野田加三郎東川と
しるもの、元正の御中中あひとるしたるを、加三郎
中古くを宛多あつたるを、加三郎と給人七知者
なりのりしと、加三郎の元とを、加三郎とあひし
との、加三郎の御中中あひとるしたるを、加三郎
御奏尾御ふめし、加三郎の御中中あひとるしたるを、加三郎
ら、加三郎の御中中あひとるしたるを、加三郎
御中中あひとるしたるを、加三郎

ら、加三郎の御中中あひとるしたるを、加三郎
御中中あひとるしたるを、加三郎
御中中あひとるしたるを、加三郎
御中中あひとるしたるを、加三郎
御中中あひとるしたるを、加三郎

有る言番以別館の領所、加三郎の御中中あひとるしたるを、加三郎
御中中あひとるしたるを、加三郎
御中中あひとるしたるを、加三郎
御中中あひとるしたるを、加三郎
御中中あひとるしたるを、加三郎

畠米神代
伽藍

後世に合く、いふと数百年の古本と云ふ
るといふも其本の董正、即ち大星小達
の傳とて、なほ、玄蕃、从色、更次、をりて
見せし、先く、ふ、世と人の傳、ふ、ふ、た、も
秘し、その秘に、ま、り、火、り、久、庵、て、誠、り、よ、ま、か、り
世のた、る、り、次、る、り、て、享、保、は、年、を、不、為、事、に
奉、り、ら、ふ、公、ふ、と、ぬ、り、く、是、さ、せ、あ、ひ、て、
享、保、も、た、く、ま、は、ら、る、日、光、の、門、室、小、も、ら、

を、ら、勢、強、ひ、り、又、享、保、十、八、年、九、月、阿、部
四、郎、五、郎、政、恒、の、家、小、加、藤、肥、後、清、正、秘、記
勢、一、鷹、棚、班、と、い、つ、若、者、と、外、題、目、の、旗
六、流、虎、の、政、伽、羅、八、種、傳、一、紙、山、院、小、後、一、小、
鷲、棚、班、と、い、つ、め、ら、る、其、賞、と、い、く、黄、金
十、枚、を、細、ら、る、是、ら、政、恒、父、四、郎、五、郎、政、重、の
り、と、紀、後、清、正、の、女、子、嫁、と、い、つ、時、と、い、つ、勢、
来、り、と、い、つ、あ、り、と、是、又、唐、書、と、い、つ、香、ら、

其むり、依々本統渡判官入道乃卷秘統
路海軍のふく、源氏相統の巻名ふよきて
名付しや、以後々本阿孫光悦のあふ
傳し、光悦の系孫、三郎兵衛ふよと、あふ
其心ひも、と、いひ、か、り、あ、る、は、是、代、實、を、
う、じ、と、い、高、人、の、こ、ふ、渡、し、ら、る、と、加、友、を、
久、通、の、り、ま、に、も、て、東、ま、し、ら、る、と、を、い、ち、
く、は、い、ち、ま、い、ち、ふ、ふ、い、ち、ま、い、ち、の、名、お、ひ、ま、ふ、
お、い、ち、ま、い、ち、ふ、ふ、い、ち、ま、い、ち、の、名、お、ひ、ま、ふ、

関香

勢むら、か、き、こ、と、な、り、ま、て、黄、金、百、兩、
か、く、求、め、し、光、を、い、お、世、を、元、中、阿、孫、の、
あ、ふ、つ、つ、一、事、世、上、ふ、と、知、ら、る、あ、ふ、今、
三、郎、兵、衛、の、時、ふ、ま、り、あ、ひ、て、其、父、祖、の、志、も、
遠、く、し、ら、る、と、い、其、香、方、す、と、い、の、程、切、り、
三、郎、兵、衛、ふ、つ、つ、一、事、世、上、ふ、と、知、ら、る、あ、ふ、今、
い、ち、ま、い、ち、ふ、ふ、い、ち、ま、い、ち、の、名、お、ひ、ま、ふ、
關香の枝、^枝先、子、松、田、若、藤、勝、原、堪、能

為しういふもくは尋ねるものら若くは
幸阿弥経縁林といふ事には派生せしめ
たふ命をうけ禮書代撰ひて守らしめ
あひしといふ

蹴鞠はたむしはみけいしと紀藩を
たせ給ひ花鳥井家の秘傳代得る
あは位ふはの勢多の法を蹴る
さ禮と花鳥井家の秘書に
しつ

今も古文庫小現存あり花鳥井難波の
御系向の時に法と其業を法鏡に
又享保十五年十月十日
寺傳法院と休らせたり
法は法ありては僧と
己のたふ集り多し鞠はたむしは
しと

散樂を好む勢多といふは

由獨少く能坂の露林をふしし事也河上
是也堪能此考ふと持恩を施し事
少くは此教打重のふ業此ふくは成ゆは
一也此法時と権輿をふしと始ゆはし
一也此大鼓少く金春三所右衛門守安之太所
小鼓ふく觀世新九所幸法次郎大鼓ふ金春
惣太清のふ成し事しと此長太谷平太史ら
其業小堪ふ流考の也事此尋ねる事ふ

事ととも河上しこの後管造此圖式成はて
歎嗚しめら流の事成と於て七流を
ゆは道此也成河と一治をんとの意
也也

其比寄公中條丹波也重景といふと一も多
七大夫とて教樂此者ありし常憲院殿を
好す勢流のりいとの法ふ堪たる者也まりよ
也庸路と流し事し人とも權をの流し

桐の向此番す不列一姓名改めく、中條露
と名乗いく程行く、廊下番此改不也り叙爵
して河内守と姓稱し、もつ文昭院殿少輔内
好中勢ありし、ういらく、毫春改家りあり、
公卿位不即をぬひし、後職ゆつと、後、
あり、後不改、一、一、祐山と号し、今世不
身み終つる身とありし、時、一、一、
一、一、修吉を、夜中、夜思百も、一、一、享保十二年

祐山謡曲

二月十九日、一、新不古、後、謡曲、一、た、不、
一、一、一、祐山、齡八十、不、乃、一、志、一、
多、一、一、一、寺、此、朝、の、系、一、一、
古、此、一、一、一、の、者、不、乃、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、一、
代、の、四、恩、代、志、一、一、一、奉、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、一、

鷹のつと勢は事々天然の妙と云ふ
且牧羊の智は河をさうも其職は者との
了るは教を清く奥旨は河と勢ととの
牧多河りし乃不流河りやうと云ふ
こもこのふく鳥の居所と見れば人
らも之をよし飼ふと云ふ事鷹は
あつとんとする時河をす終るしは
事なすもこのこと終とまらる人の終

不と鷹飼の本意は河は家と云ふ
所と見ると其狀は見定めみ河り
乃今をじと思ふ圖ふしは鷹は放り
是鷹飼のむねとす所なるしは鷹の
もあふの利も秋をててせし勢と
揚りくるにむらみも自ら不春の
進退ふくしは鷹の勢は河り
かきすも取とのむねと終とあらる

細くもとるべし。のら竿もあはれに
襦袢放法に其暇さうし事とありし
時頃と考へて放し海きさるるもたす道智
の人ふふしつて勢多し。いふも襦袢の
はり様と見えし。勢一ふ人の中を
ふも其放らば海地のものありし
や。小圖紙に。しつて折る様と
しつて。勢多し。見付す。

は奉ふとす。ぬれ志と。しつて。合勢あり
し。しつて。勢多し。しつて。しつて。
先より。何れに。加減あること。しつて。
後ふ。元氣。しつて。且。期したる
日。しつて。勢多し。しつて。しつて。
出来し。しつて。しつて。しつて。
自ら。しつて。しつて。しつて。

田代也、教之、法沙汰河の事、小鷹將の時、
也、古、放火といふ事、成とあり、
に、水、上、楠、右、陽、昌、善、世、業、小、光、練、師、
の、身、を、小、次、上、也、法、成、不、得、り、事、鷹、飼、此、
事、と、司、と、り、也、あり、
諸、家、の、秘、書、鷹、經、成、鷹、經、鷹、鶴、方、西、陽、雜、
俎、其、外、唐、高、
法、か、と、書、く、
進、ら、せ、
也、終、り、
法、成、右、書、て

沖撰述

朝夕、法、成、河、に、中、
西園寺、鷹、百首、京、極、中、細、名、定、家、
と、見、出、
の、事、也、
七冊、西園寺、鷹、百首、流、義、林、成、法、撰、述、
の、事、也、
つ、く、ら、勢、あり、
鷹、此、事、小、あり、

三浦家紋

出羽守紙珍小伝河守と傳、訂板松河英世業記
いふに、三浦家の紋如也、いふ成子細河守といふ、
安部豊後守信峯の家人、松永九大夫留書履を
いふ事、となく先練の者にて、諸家おと原
河守とて聞え、母の平次となく、いふ、多波守
守ぬ庵とてあり、出羽守承也、其夜松永の
りといふ起す可くと申さる、松永と請記音は
庵守に河守とれ、次日三浦志摩守義隆の成

小と聞中、諸家小も尋ねたる、三浦の先祖
平六九傳の義村の成、不用い、幕入布の四本の
三布代、黄紫、紅、小深、上下白く、皆也、其後衣
服、小と、袴、代、紋と、いふ、れと、河守り、義隆、小
色、いふ、れと、上下、此、白、き、所、と、丸、小、垂、い、黄、紫
紅、代、三、川、の、海、小、外、い、多用、い、い、る、と、い、く
河守、い、い、は、松、原、の、成、小、諸、家、小、文、也、河、守
と、智、熟、い、た、者、と、い、は、我、知、る、と、尋、い、小、と

速不苦は色と信りてくは感成象として
今も彼の象不音傳へあり

有馬出羽書紙珍は前ふ出の時朝比奈二而義秀
の紋は何れやと出尋は里しりる落此凡そ
うきたきとるしと中もあふふは中勘齋
との信能優りしめ多朝比奈の相言を
時おのの紋を付しとるし何や海とく世人が
鶴の凡代朝比奈の紋と是を信るは朝比奈の

紋々草合と多福本を打透し一色のみと
多の圖代書しめて下す様しうそ出羽書
甚感佩し初る承りぬと中て選きしに象代
志とくと尚め強ひ家先小日光山と来りし
時番士の小林源八郎正壽とく朝比奈の子孫の
いよとるを教世世代用ひ来きと中をし
とに信る多と志は海しと信りて多様と
出羽書いよと感成しとる海りてあり

紀州熊野の檜友代といふ所より製し出次
書に古今著聞集言原集入本道源池抄
消息丹底抄二條為重集等少と見一書
いと花さしき名産ありと云はれ流の流り
の絶つり一代宝永の末正徳のころに公紀藩小
かきし海にたはれ去る令一多はれ絶つ
めらし一今の昔少と云えと云くはれ
出しと云はれ絶つる代興一と云ふ事と

紀藩小紅一替者川村檢校の頭りといひ
傳へし又魚膠とて書代製する事書讀り
考出あり成語道筑信通と多南越の書と
古梅園和泉元春小令と云はれ和漢の書乃
魚膠と云はれ和膠と優劣代くら一墨抄の事
と云はれ試よと云く本草附方の抄源杯録と
河一と云はれ南越とて製しと云ふ感為の
如く出来事被れ和漢小を替らるに云ひ

魚膠の製法すは世に傳ふは尋常にして私泉の書に
魚成清水に投し二重湯とて煮たる後熱し
てをり成清く魚としす多し因計のより重熱
し堅實不意はしり故に固く減するを記
す下と稱し膠と二重湯とあるは氷を
砕きし後故色をくわうはし大神の膠を
用ゆる可し魚膠と二重湯を用ゆべきこと或は
成りて書に拾挺成はしはなりと傳ふしとせ

は私泉の好事ある者にして私傳の古法に考へ
良書の中製しり種々靈元上皇とて
千歳松といふ名と編りし書といふも
後世に傳化し尚時有名の文人詞客の題
詠とあり數十冊とありぬされを志しり
しと象りし良書多く造りし事奉りし
とせ

享保年中阿蘭の人小汝等世界に渡海し

數十年以前と云ふる船中何れも氷と
酒(飲食の用に此の酒を)と云ふありて
答(答)る氷は冷るるを云ふなり。舟の舟中
海にたる所なく、洋中の潮波をみれば、
清水と云ふありて、中流に云ふなり。
海流と云ふありて、密に云ふなり。是
も、云ふレキステイこと、石の地を、
等ふ云ふ、海、雲、雲、雲、
等ふ云ふ、海、雲、雲、雲、
等ふ云ふ、海、雲、雲、雲、

い、流、砂、河、新、と、云、石、云、
中、少、也、完、り、の、不、あ、る、と、云、
雲、人、の、持、一、石、此、如、く、造、る、
出、る、水、流、す、清、水、と、云、潮、氣、と、
雲、人、の、持、一、石、云、い、さ、か、
雲、中、一、多、是、ら、脆、き、や、と、
と、云、海、と、云、海、井、と、云、

見ゆ小紙ありり世此物と見ゆ殊小紙
大きあり紙ありと云

砂糖

砂糖も今々日用の糖に代る糖と唐より
来り代り流るるの糖と云其用也海産糖と
云り甘蔗培栽の法と云り種々尋ねあり不
京保十二年、松平大隅守の家人藤倉孫右衛門と
いふもの薩摩國より出きこつと培殖の事其
委りて種も其教法傳りぬる濱の法存りて

化りぬるあり又駿河長崎等の地も種々種
延享のころぬるあり世事改法ありぬ
源見新云糖有隣書ぬる等少と伝下されぬ
天二用物改りぬる府志縣志等の諸書より考案
らるる又長崎小来り唐高李大衡游竜頓杯
に同しぬるあり各製法の事改書多奉
禮り、以上正庭の下吏是田大助某といふを心き
く作者あり、製法小紙を云、小姓改法抄略

政武も信代語、次よ小玉の火候杯試し奉り
河原の如く其頃と云惟小意をさらぬや、唐
土の如く多く出来たりかりしと寛政乃
ち一め小玉にては諸國亦多く作し出
唐産多しと盛不引も多し大沙河原ふとの地
少く氷砂糖作さく多やと製する事と
と全く此時時の心きこの振く河原を
小玉を有りと

甘藷

砂糖小次く甘藷と云作らしめ多しと事
河原の如く其頃と云是れ享保十七年西國
災ありし農氏飢饉なり時作見新吾藩有隣
邦長崎の辺凶荒の海舟舟回勢らきし
新吾藩答中りる果文彩右衛門貞恒長崎の
者らの彼地をいと米三石ありしは地
して市中小ありしは其者も二百戸に
たきし土地の米と十日のりありて食

なりとく、培法抄書く奉まると、其本文藏
敦書も甘諸考ると書多きを、其比長考の
誤り平野良右衛門といふもの江戸小本とす、
波倍法小抄く、き中、新去流より薦巻抄く
の文、就良右衛門して、次上の法、
一、め、終ひ、一、に、是も年代、
多きとす、近國の代、
撰ひ、種々、
一、に、
一、に、

榎蠟

河、
常小持、
如、
一、
榎蠟小製、
三年、
榎蠟の事、
一、
一、

極らまじし小やうく盤邊幣一は府内少也
世製法と志す一者河へ一と求められし
凡そ法と清といふ高入りと薩摩の者して極
蠟の製法不誤と申す可なり其製と
尋ねられしに極く書多奉りぬ極く
法と清小命を極く不川は殿山芝新築の
不とす其製法極多前幣と法世時法清の
のまじし地法撰み極好や一法へ一と奉

其製法極多事法請中多奉り今其製法前
たり其年極くしてたより用不立極く書
河へ一にいかにと某の生法不利法得る事と
明し一といふ其年極く後子孫不立と生法
よせうととあり一形も未承く國用た極く
極しと中多ありに理よりと法を極極の製法
与らる法と清是法戸田川の透不前と極
成不幣一の其後大水不透多皆流没をらる

神田川堤柳

けしき車にまじりてと次上石殿山新集乃
榎の年毎亦多く実のこころかた彼法之席の
うきまた海より多々帆小製りたるを我々の
夜、意は花を顔ふく造る勢ありて

神田川の堤小柳成植る勢ありて一年は
皆成りて今も柳系と号し遠近の毒薬と
ありて遠國より来りて旅人の路次水邊に
成事少うして石陰よ高人の市衣形成りて

若多山梅

河殿山之ぬえ

中野柳

墨田川柳梅

逆井翁竹

にきりて所とぬえ世外花を山乃梅とさすは
いと石殿山のぬえ中野の柳墨田河堤乃柳
梅成りて逆井の渡小紀伊國より若竹の
種成りて梅もさすも感有りわかし
事少多皆清餘徳と伝ふたりたるは
いとわかし石殿山にあり

石殿山の紀伊郎小をとりて海より種あり
質素成ると号し後華藤の服飾をいと

あひらの大統の習ふひ一後を
天下此めゆ事と成事成ありて
質多ふなり一後一先深上下
の法肩成機苗為此法袴夏
とて地土と成るの成る羽二重
後八丈綿少く紗綾綿綿免
色と素更裏と茶のこに深
晒の布浅黄色成用ひひ烈暑といふ

み屋綿とて成丁子深とて柿色小深一
免さう等あひ此綿と栄耀の物なり
めさせあまの久のさしき日也
総糸小事なくと総糸二色小深
重糸小事なくと先年小玉
法成火小燠め糸小事なく
形了これ等懐信院殿も長福君と中せし
程と此肌忌小糸小綿の糸と

此肌忌小綿

少を元元文のよりめ竹千代後明院誕生
河上比公西城ふまこらさくひ正徳寺の
余りたふ抱う勢ふ事河上く言端の
河上あやり地さくたさ河上とて始
たの端代先う終くと有るく荷便を
物させ終ひく御代の内河上食の費用
並代小比中終も中代もぬまくと有るの
中少もくも不可くまにた奏の法坂深く法後と

右終る時を飯少も法是代伸くて横介
那終ふ事あやりくもかじ
常小信者らとむくく上も下も奈後を終
次弟の事簡易あやりくも費用事た
多諸民あ徳か一の太平日久くく小随ひ
人々荒美代この奢小娘者ら風俗と如く
故世中自らと不くまにいたる衣履調度
形の数多く如くくかやらぬあやり

遂小乞^ス智^チク^ク事^シナ^ナ一^一出^出カ^カハ^ハ鞘^鞘三^三尺^尺金^金
出^出見^見海^海と^と二^二尺^尺寸^寸と^とカ^カシ^シ如^如一^一海^海印^印菟^菟ハ
毛^毛塗^塗内^内ハ^ハ梨^梨地^地結^結メ^メハ^ハ三^三患^患子^子出^出希^希附^附ハ^ハ象
牙^牙赤^赤洞^洞河^河ハ^ハ祢^祢ノ^ノモ^モ此^此種^種ハ^ハ少^少シ^シテ^テ金^金銀^銀ノ^ノカ^カガ^ガ
ハ^ハ絶^絶ク^クカ^カシ^シ河^河ハ^ハ佩^佩刀^刀代^代新^新小^小造^造ク^ク智^智ク^ク
時^時柄^柄小^小用^用中^中紋^紋ハ^ハ人^人ノ^ノ愛^愛ノ^ノ莫^莫如^如代^代人^人ノ^ノ好^好シ^シ
故^故價^價ノ^ノ高^高ト^ト代^代論^論ス^スハ^ハ小^小玉^玉ハ^ハいと^{いと}花^花ノ^ノ事^事ナ^ナハ^ハ
家^家ハ^ハ珠^珠ト^トカ^カシ^シハ^ハ塗^塗紋^紋柄^柄ト^トモ^モ紋^紋ノ^ノ甲^甲シ^シリ

河^河流^流ハ^ハ次^次ハ^ハ多^多ク^ク事^事禮^禮ト^ト信^信有^有一^一ハ^ハ松^松平^平丸^丸を
將^將監^監宗^宗色^色承^承ト^ト是^是ハ^ハ有^有強^強ト^ト上^上三^三意^意ト^トモ^モト^ト也^也
ハ^ハじ^じハ^ハい^いハ^ハ多^多ク^ク虚^虚矣^矣代^代カ^カハ^ハ信^信ト^ト代^代用^用ト^ト耗^耗ト^ト
ト^トハ^ハい^いハ^ハ代^代傳^傳ト^トハ^ハ天^天ト^トハ^ハ小^小令^令ト^トハ^ハ代^代傳^傳ト^ト也^也
車^車代^代禁^禁ハ^ハ中^中層^層キ^キヤ^ヤト^ト中^中リ^リ移^移ト^トハ^ハい^いハ^ハ
ク^ク移^移ト^ト武^武士^士ト^トハ^ハ者^者ノ^ノ者^者要^要ノ^ノ刀^刀鉞^鉞ト^トハ^ハ小^小
智^智ト^トハ^ハい^いハ^ハ信^信ト^トハ^ハ是^是ト^トハ^ハ家^家ノ^ノ好^好ハ^ハ
如^如ト^トハ^ハ塗^塗紋^紋小^小ナ^ナト^トハ^ハ信^信ト^トハ^ハ是^是ト^トハ^ハ代^代傳^傳ト^ト也^也

右の通り、珠紋陰紋採用し、平柄柄
は、活りの多くあり、とあり、是より先
文照院殿の頃より、長き平巻紋佩る事、
世の时尚とあり、上と下も、是れ好みはる也、
公事、記簿、不海、一、一、須波郎の藩士、
平巻紋佩る、落馬、一、其平巻、小く腹乃
と、成志、一、一、不、活、一、一、息絶、一、一、有、し
か、一、一、是、一、一、長、一、一、平、一、一、巻、一、一、紋、一、一、佩、一、一、る、一、一、様、一、一、公、一、一、小、一、一、柄、一、一、附

平巻と事、柄、小、幅、廣、紋、用、る、勢、あり、一、一、を、
相、違、い、一、一、少、也、一、一、と、一、一、あり、一、一、可、一、一、分、一、一、は、一、一、活、一、一、事、一、一、な、一、一、り、一、一、と、
一、一、活、一、一、可、一、一、也、一、一、其、一、一、妙、一、一、製、一、一、一、一、た、一、一、る、一、一、活、一、一、佩、一、一、一、一、世、一、一、人、
多、一、一、く、一、一、是、一、一、活、一、一、字、一、一、九、一、一、迫、一、一、形、一、一、と、一、一、号、一、一、勢、一、一、と、一、一、あり、一、一、と、一、一、然、一、一、る、
能、一、一、一、一、河、一、一、と、一、一、と、一、一、人、一、一、の、一、一、上、一、一、不、一、一、あ、一、一、し、一、一、人、一、一、の、一、一、活、一、一、と、一、一、
字、一、一、易、一、一、也、一、一、活、一、一、一、一、と、一、一、事、一、一、に、一、一、と、一、一、也、
元、一、一、藤、一、一、の、一、一、服、一、一、飾、一、一、と、一、一、様、一、一、と、一、一、様、一、一、一、一、比、一、一、名、一、一、先、一、一、の、一、一、部、一、一、を、一、一、増、
正、一、一、徳、一、一、一、一、上、一、一、と、一、一、海、一、一、と、一、一、事、一、一、と、一、一、一、一、十、一、一、件、一、一、と、一、一、記、一、一、一、一、

何と多額に成るや、其へく九折不交、
不伐海言を、河も事かなと、作らる
と也。

平上、紀藩の庶子少く、彼も勢弱し、
若くは、自ら武藝成たり、みまじ、
無くは、自身成業を、するも、事法、
と、め、人より、多く、き、め、
所、又、光、自、所、
所、又、光、自、所、

庶子多額に成るや、其へく九折不交、
不伐海言を、河も事かなと、作らる
と也。
平上、紀藩の庶子少く、彼も勢弱し、
若くは、自ら武藝成たり、みまじ、
無くは、自身成業を、するも、事法、
と、め、人より、多く、き、め、
所、又、光、自、所、
所、又、光、自、所、

類ひなく、庖厨の者も驚く海多女！
奉_行志もく河をくくるとありと河白鯛成奉を
しに是れ志め鯛なること信河は信膳番清信
奉_行のたぐひたれを知り信膳をくく
魚高小舟しに志め鯛とわ死をく鯛成を
と中々移しといふ事か信膳言返志海しめし
ある也と皆人驚きく合をくく豆腐成信
たつ時くく白川大豆ふて化すか信海を

他人小向しにきくく一海多女く如くかくく
いもく皆人感伏しと我くく三浦の代官日野
小丸束の正膳番藤巻六郎直房小合をく信
るめ鯛成りく信膳小信くく一奉と信
くく

勝栗

遠江國只末山東の二村をくく初春上に勝栗_{乾栗}
成真なる奉河をくく是れ東照宮清軍河をく
時彼人のをく信くく一海多女例となる今も

絶てを了しはとしかる。後々唯危所なり。用者
事とのとありしゆき。成寛保二年正月
七日。佐藤番後田平次郎政次。成を去。世務票の
昔より。尚家の私例の用。わたり。今年より
年毎に正月十日。具是成。か。方。所。佐。所。の。物。と
して。一。か。り。の。事。み。多。く。不。用。ひ。す。法。の。事。河。の
屋。の。成。と。佐。河。の。一。か。り。今。も。彼。佐。所。の。成。
必。以。世。業。成。用。ひ。ら。る。事。と。な。る。事。是。も。古。義。

沖鎗

捨多中多々。成此一。端。成。一。
紀州。不。お。や。一。者。の。時。仲。務。と。い。ふ。事。の。成。佐。所。不
佐。一。者。の。成。不。か。り。し。者。務。を。成。佐。所。の。成。好。む。
河。の。成。多。く。い。つ。勢。の。成。は。成。不。お。や。一。ま。り。て
後。也。是。成。好。む。勢。の。成。多。く。い。つ。勢。の。成。を。成。好。む。
成。不。か。り。し。成。一。は。成。自。新。場。の。成。佐。所。の。成。
成。一。魚。成。調。理。して。成。一。め。一。は。成。一。年。
成。一。成。初。免。多。く。成。海。不。か。り。し。成。一。鮮。味。成。た。り。

くまると信河守多法事一き大町一あは
北助賞小と多新場の魚高等鎌倉三浦
乞水浦野の奥代皆之語すにうと子
王代許さ様一きい一也

是を重以上巻三巻多師技藝師雜事次記次

乙巳臘月初五夜一侍了

頼移

